

妊婦の急性虫垂炎に対する腹腔鏡手術の安全性・有用性に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年8月21日～ 2026年3月31日

〔研究課題〕

妊婦の急性虫垂炎に対する腹腔鏡手術の安全性・有用性に関する多機関共同研究

〔研究目的・意義〕

妊婦に発症した虫垂炎は重症化しやすいため、正確な診断と適切で迅速な治療が必要となります。手術治療が望ましいと判断した場合、母体だけでなく胎児へも影響が及ぶ可能性があることなどを考慮しなければいけません。過去の研究で腹腔鏡手術は開腹手術と比べ胎児死亡率が高いことが報告されており、日本内視鏡外科学会ガイドラインでは「妊婦の虫垂炎に対する腹腔鏡手術は、開腹手術と比較して、流産率および胎児死亡の発生率が有意に高く、腹腔鏡手術の適応は慎重に行い、今後、臨床試験等で検証していく必要がある」と記載されています。一方で、近年の腹腔鏡手術の手技、機器開発の進歩はめざましく、これまでの報告とは時代背景が大きく異なると考えられます。そのため、本邦発の妊婦に対する腹腔鏡下虫垂切除術の安全性、有効性を胎児への影響を含めて検証することは重要であると考えています。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属溝口病院にて2012年1月1日から2021年12月31日に急性虫垂炎に対して手術が行われた妊娠中の患者様が対象です。カルテから情報を収集し、統計学的に治療成績や治療成績に影響を及ぼす因子を明らかにします。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院外科。本研究は多施設共同研究です。研究代表者は大分大学医学部消化器・小児外科学講座 猪股雅史 教授であり、研究参加機関は137施設になります。

〔個人情報の取り扱い〕

個人の同定につながる個人情報については収集しません。情報は個人を同定できないよう加工した上で、帝京大学医学部附属溝口病院外科医局パソコンに厳重に保管します。研究終了後は電子化したデータセットを帝京大学臨床研究センターで10年保管の後に廃棄します。また代表機関には個人が同定されないように情報を提供いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 小林宏寿 職名 教授
研究分担者：氏名 高島順平 職名 助教
所属： 帝京大学医学部附属溝口病院外科
住所： 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1 TEL: 044-844-3333(代表)〔内線 3223〕